

都市公園計画への風土特性の導入について

Introduction of mental climate aspects to urban park planning

秋山 孝正** 稲田 眞江***

By Takamasa AKIYAMA **, Sanae INADA ***

1. はじめに

公園は、日常生活の潤いを創り出す空間、及びレクリエーションを楽しむ施設の空間としての意義が大きい。都市公園法に基づく都市公園は大別して4種類である。標準対象人口や標準規模、誘致距離の違いと目的の違いから、基幹公園、特殊公園、大規模公園、公害対策緑地となっている¹⁾。

日本においての公園の設定は明治頃であると思われる。それ以前は、社寺の境内等が現在の公園と同様の機能を果たしていたと思われる²⁾。社寺境内には樹木が生い茂り自然と一体化したその空間で、名所や花見の他に信仰のための参詣や祭礼などを人々は楽しんでいたと考えられる。

また、公園の歴史は、日本よりもヨーロッパの方が古く、古代ギリシャまでさかのぼる。古代の生活の中で人々のために開かれていた広場は、非常に重要な役割を果たしていた。神々のために小さな木立が捧げられ神殿には庭園が設けられていることが多いとされる³⁾。すなわち昔から人が集まり、憩う場所には民間の信仰と深く関係し、精神的、土着的な要素、風土が根づいている。

現在においても人間の心は、大地の懷に抱かれて生きてきたし、またこれからも生きていくものである。当然のことながら公園は憩いが目的であり、風土は人に安らぎを与えてくれるものであることがわかる。

したがって、現代の公園計画にも風土の導入が重要であるとがわかる。

2. 都市公園の計画手順

(1) 都市計画の中での位置づけ

都市計画には人間が都市生活を営むのに必要とされる「居住」「労働」「休息」「移動」の四つの基本的要素がある。中でも公園は「休息」に位置され、都市生活や都市活動に不可欠な基礎施設である²⁾。

本研究の対象公園を都市公園のなかでも広域公園とした。公園は都市公園と自然公園として大別されるが、自然公園は、都市計画とは別途に指定されているからである。また都市公園のなかでもの大規模公園に属する広域公園を選定した。広域公園は、一つの市町村の区域を越える広域レクリエーション需要の充足を目的とする。

このため、様々な立場の人が、様々な地域から公園を訪れる。このようなタイプの公園は、極めて典型的な都市公園であり、研究の端緒として妥当であると考えた。

(2) 公園計画の一般的手順

公園計画においては、上位計画等に基づき予定対象敷地における公園の機能やコンセプトなどを明確にする。さらに、公園のイメージとそれを規定する主要な施設について各項ごとに検討し、公園整備の方向性を決定することが一般的である。公園計画一般の手順を図-1に示す。

対象地域が選定され、敷地の面積や地形を1)の公園規模設定で決定する。次に公園計画全体に方針の浸透を図るため、2)の設計コンセプトの導出を行う。どの範囲をどの順序で、または形で表現するのかを3)のゾーニング計画で検討する。次に既存の自然のどの部分を利用するのかを4)

*キーワード 公園・緑地、空間整備・設計、イメージ分析

**正員、工博、岐阜大学工学部

(〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel. 058-293-2443)

***学生員、岐阜大学大学院工学研究科土木工学専攻

の自然条件の利用計画で検討する。4)の内容と人工施設との調和を計る。またどんな目的に合った施設を必要としているのか5)において設置施設計画を行う。目的に合った施設と周囲との調和のとれた空間構成にするため、6)に施設配置計画を行う。園内のどの場所をどのように通れば、公園全体が楽しめるかということより、7)において動線計画を行う。全ての計画を検討してから施設のデザイン性や園内の景観を計画するため8)に景観・意匠計画を行う。

以上の流れに沿って公園計画を進める。

(3) 風土特性導入についての検討

ここでは、現代の公園計画にも風土の導入が望ましいことから、(2)の一般論的手順の各項目における風土導入具体例を表-1に示し検討する。

表-1より、全体的に風土特性導入における内容バランスがとれていることがわかった。

各々の計画項目、流れにおいても風土特性の導入には問題もなく、風土導入においては有効であることもわかる。地域の文化1つ取り上げても、計画項目が異なれば、導入の方法がかなり変化することもわかった。地域の風土を考えたとき、風土には複数の側面が存在することが、表-1よりうかがえる。

3. 対象公園の風土特性の検討

(1) 対象公園の概要

本研究の対象公園は、岐阜県可児市瀬田所在のある「花フェスタ記念公園」である。公園の平面図を図-2に示す。計画決定は昭和59年12月に出され、面積は約74.6haであった。その後の計画は平成8年3月に出され、面積は約80.7ha、¥16,420,240,000円(昭和59年～平成8年)の事業費であった。

この公園は都市公園の中では広域公園に属する。公園の基本構想は「シンボルボルゾーン」「花と郷土の森ゾーン」「自然観察ゾーン」「活動ゾーン」の4つのゾーンを基本として、それぞれのゾーンにふさわしい施設の配置を行っている。

また、「花の都ぎふ」づくりの中核拠点となる

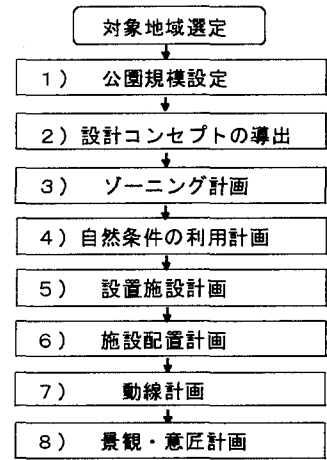


図-1 本研究での想定する公園計画の流れ

表-1 公園計画における風土特性の導入一覧表

計画項目	風土特性導入の具体例
1) 公園規模設定	・地域の山や、川などの自然を取得 ・習慣や風俗、信仰が異なる地域での設定 ・地域の歴史的背景の取得
2) 設計コンセプトの導入	・地域特産からのイメージ ・地形からのイメージ ・地域住民のイメージ
3) ゾーニング計画	・地域の文化ごとの利用 ・地域の歴史(年代)の配慮 ・地域の自然ごとの計画
4) 自然条件の利用計画	・既存の地形の利用 ・生態系についての配慮 ・季節的な配慮
5) 設置施設計画	・地域の人々の考え方の表現 ・地域の歴史、文化の表現 ・地域の地形的な部分の表現
6) 施設配置計画	・地域の自然が身近に感じられる配置 ・地域の地形が眺められる配置 ・地域の雰囲気を感じられる配置
7) 動線計画	・地域の自然との関係 ・地域の人との交流 ・地域の歴史を巡る
8) 景観・意匠計画	・地域の文化からみた建物のデザイン ・地域の風景をモデルとした景観 ・地域の色を施設に利用

ように「花の公園」としての整備を行っている。

さらに平成7年4月26日～6月4日の40日間開催された「花フェスタ'95ぎふ」の会場となり、その成功を受け平成8年度には計画区画を拡張し、さらに魅力あふれる公園として整備を推進している。

平成8年度の入園者の状況は5月が一番のピー

クで、約8万5千人、次の6月の約6万5千人となる。7月と12月にそれぞれ急激に入園者数の減少はあるものの、秋の季節の9月から11月に又入園者数が増加傾向が見受けられる。公園内の計画の様子は、コンセプトが花の公園であるように数々の植物が園内に植えられている。

主要な施設としては、13施設が建設されている。中でも「日本一のバラ園」は、世界中から1450品種41000株ものバラが集められている。人気の高いイングリッシュローズ、オールドローズ、各種のハマナス等極めて貴重な品種を植栽している。

その他の施設にも「東西のグラデーション花壇」や、「花トピア庭園」、「霧のプレリュード」、「花いかだ」、「花の地球館」、「花の芸術アベニュー」等、園内には一年中美しい花が咲いている。また花以外にも県内の特産品が味わえる「花の屋台横町」や「花のタワー」、「アスレチック道場」、「音楽広場・語らい広場」等の施設も配置されている。園内では催しものもあり、花工房や植物の展示会等内容も豊富である。

(2) 可児市の風土特性

花フェスタ公園のある可児市は岐阜県の東南部に位置し東は土岐市、西は愛知県犬山市、南は多治見市、北は美濃加茂市・坂祝町と境している⁴⁾。

総面積は、84,910,000m² (昭和53年1月) である。土地の利用別面積に分けると、山林・原野の(34.4%)が一番多く、次にその他(26.4%)、農地(22.1%)等に分けられる。

また海拔は、最も低い場所は木曽川町域内の最下流域で44.2mである。一方、最も高い場所は町の東にそびえる久々利の浅間やまの372mである。したがって、高低差は約328mである。西にそびえる犬山山塊の町域内には、帷子石原の両見山の339.9mや東の鳩吹山(土田山)の313.5mがある。このような自然背景をふまえ、人々の生活は70～110mの数段の河岸段丘や可児川やその支流である久々利・大森・姫などの小河川が開析した平坦地で営まれてきたのである。

しかし、近年はそれらの平坦地を囲む丘陵を削って多くの住宅団地が建設されている。

花フェスタ記念公園 平面図

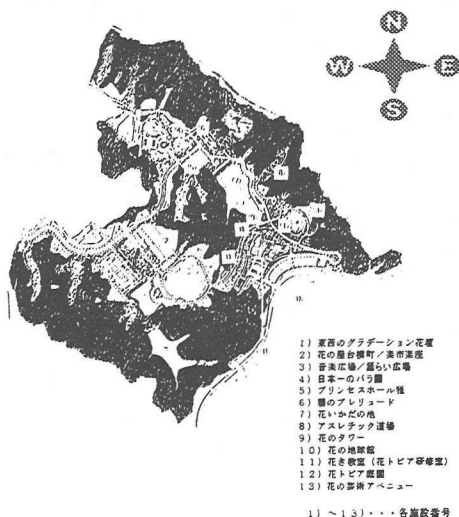


図-2 対象公園の平面図

地形的には、可児は美濃三川高原と濃尾平野との境にあたり位置し、全体には平坦な地形である。特色としては隆起準平原や河岸段丘がある。

気温に関しては年平均気温は、14.7度であって我が国の文化的気候帯に入る。可児川気象通報所での白梅開花の平均は3月5日であり、桜(染吉野)の開花の平均は4月4日である。

年間平均降水量は1682.7ミリで県下でも降水量の少ない地域に入る。

降雪も岐阜県では少ない地域に属している。

旧石器時代の頃より可児の付近では関市赤土坂遺跡、富加町海老山遺跡、八百津久田見等で遺跡が発見されている。

水害に関しては可児川とその支流である久々利川・大森川・姫川等の他に小河川が流れ特に久々利川が可児川へ合流している下田尻村・下切村等は毎年のように被害をうけた。

産業に関しては江戸時代の可児は純農村地帯で、農業の他には、久々利の太平での陶器・瓦製造と幕末ではあるが土田で行われたガラス細工が顕著である。

交通に関しては可児地域内の江戸の交通手段としては中山道、木曽川の水運を軸とし、主要な道

路はそれらにつながっていた。土岐から川湊へ向けての土岐街道と、土田・石原を経て名古屋へと通じる尾張街道などがある。

(3) 公園施設と風土特性について

ここでは対象公園の施設と風土特性の関係を現行の施設計画の中から整理して表-2に示す。

表-2においては、公園の施設の中にも風土特性と関連づけられるものが存在することがわかる。

ここで、風土が見受けられる点について以下に列挙する。

- ① 右記に記す 2)、4)、5)、10)、11)、12)より食物や植物等の種類は関係なく、地域の特産物による風土特性の表現が可能であることがわかる。
- ② 1)、3)、9)より体感や、眺望等の内容とは関係なく、地域の環境や風景による風土特性の表現が可能である。
- ③ 3)、8)より自然を体感するだけでも、地域の風土特性は表現可能。
- ④ 6)より、地域の象徴を見つけ、アピールすることは風土特性にもつながることがわかる。
- ⑤ 1)、6)より 風土特性を持つものを実際に利用せず、演出するだけでも地域の風土性は表現される場合もあることがわかる。
- ⑥ 13)より地域の人の考え方を表現するには何かを創造することにより風土特性が可能である。
- ⑦ 13)より地域の人同士の協力体制は地域の連帯感を表現し、風土特性を表現することが可能である。
- ⑧ 全体を通して、既存の公園では風土特性を表現する手段として、周りの環境や、地域の植物を用いた場合が多数存在することがわかる。
- ⑨ 7)より 地域の自然との調和による風土特性の表現が可能であることがわかる。
- ⑩ 5)より デザインによる風土特性の表現が可能だということも分かる。
- ⑪ 2)より 故郷の地味はそれだけでも十分風土特性が含まれていることがわかる。

以上のことから、既存公園にも風土特性が検出可能であることがわかった。

また、風土特性が浸透した対象公園ではないのだ

表-2 公園の施設と風土特性の関係

施設名	内 容	風土が見受けられる点
1)東西のグラデーション花壇	「山」や「川」等の故郷の風景を演出した花壇	・地域の風景の演出 ・地域の地形の特色
2)花の屋台横町	県内の特産品や「ふるさと」の味が豊富	・地域の地味 ・地域の人との交流
3)磨いた広場	芝生の上で自然のリズムを体感できる広場	・地域の環境 ・大地の感触
4)日本一のバラ園	世界中から 41000 株ものバラを集めた庭園	・岐阜特産の
5)プリンセスホール様	参加型、開放型のイベントホール	・建物の素材 ・建物のデザイン
6)霧のプレリュード	人工的に霧が発生する花と木の芸術的カスケード	・地域の象徴である水の演出
7)花いかだの池	周囲の緑と調和した景観を醸成	・地域の緑との調和
8)アスレチック道場	バラの花をモチーフとしたコンビネーション遊具	・自然の体感
9)花のタワー	花の海に浮かぶ船をイメージした展望タワー	・地域の風景
10)花の地球館	自然のすばらしさと偉大さを五感で楽しめる空間	・地域の自然植物
11)花さ教室	花づくり花飾りの教室開催	・植物の利用
12)花トピア庭園	ヨーロッパ風のコンニファーと刺繍模様の花壇	・植物の利用
13)花の芸術アベニュー	県民・企業等による独創的な花壇	・地域人の考え方 ・地域人の協力

が全体の構成の中において、徐々に風土が配慮されていることがうかがえた。

4. おわりに

本研究において、公園計画や既存の公園における風土特性の要因を検討する必要性が明確になった。図-1の公園計画の流れにおいては早期の段階において風土特性導入が可能であることがわかった。表-1より各項目ごとに風土の導入が可能であることがわかる。公園計画や、既存の公園施設の内容より、風土特性の導入は人々に精神的リラックスや、故郷への想いを含む安堵感を与えるという意味で、重要であることがわかった。

今後の課題として、対象公園を増加し各公園ごとの風土特性導入例を指摘する。これより多数の公園からの風土導入の具体的展開を検討する。さらに新規の公園計画のための風土特性導入様式を考案し、地域性に優れた風土特性の現れた公園を検討する。

【参考文献】

- 1) 加藤晃：都市計画概論，共立出版株式会社，1997
- 2) 福富久夫，石井弘：緑の計画，株式会社地球社，1985
- 3) K.ホイッカー，K.ブラウン：人間のための公園，p.27，28，鹿島出版，1976
- 4) 可児町：可児町史，1980